



しら 白 かげば 樺

同窓会会報 第4号
発行/東京都立永山高等学校同窓会
〒206-0025 東京都多摩市永山5-22
TEL 042-374-9891
FAX 042-371-5615
HP <http://www.nagayama-obog.jp/>
編集・印刷/榊同窓会事務局
〒121-0831 足立区舎人3-11-26 EPS
TEL 03-5839-3456(代)
FAX 03-5839-3460



2011年6月11日(土) 定期総会(体育館にて)

校歌

作詞 志賀 義雄
作曲 平吉 毅州

一、春甦る 多摩の丘陵
希望みなぎる 若人が
真理求めて 集いたり
われら永山 われら永山
豊かなる 知性磨かん

二、紅葉綾なす 多摩の丘陵
たぎる血潮の 若人が
あつき友情 育てゆく
われら永山 われら永山
限り無き 情熱燃やさん

三、白樺高き 多摩の丘陵
力あふるる 若人が
理想めざして 進みゆく
われら永山 われら永山
逞しき 意志鍛えん



「創立五十周年へ新たなスタートを！」

会長 奈良崎 久和 (三期生)

会報第四号の発行にあたり、ごあいさつさせていただきます。

同窓会の活動に対して、ご理解ご協力いただき心より感謝申し上げます。私たち同窓会は、一九七五(昭和五十)年、一期生の卒業と共にスタートし、途中、活動休止をした時期もありましたが、今年で三十八年目を迎え、卒業生は一万三千人を大きく超えました。

また、創立三十周年を機に活動を再開した新生同窓会も十年の節目を刻み、同じ学び舎で青春時代を過ごした仲間との絆を深め、後輩を支援するための活動を行っています。

リニューアルしたホームページなども活用し、少しでも同窓会・学校の様子を伝えるとともに、総会案内などタイムリーな話題の提供にも努めていきたいと思っております。

本年度は、二年に一度の同窓会定期総会を六月十一日(土)母校体育館にて開催いたしました。総会の開催日に合わせて三期生と七期生が同期会を開催するなど、総会が懐かしい恩師・友人と旧交を温める場として、だんだんと定着してきています。総会や会報などを活用いただき、同窓生同志の交流が深まり、母校へのおみなさんの思いが結集できるよう、これからも微力ながら取り組もうと、役員一同考えています。

そして本会報でも詳細にご報告しておりますが、わが永山高校も創立四十年を迎えました。六月十一日(土)在校生や先生方とともに母校で式典、京王プラザホテル多摩での祝賀会と、厳粛な中でも周年を祝賀する思いの溢れた、またこれからの発展を期待させる楽しい会となりました。

なお、周年を記念しての寄付事業にも多くの方が賛同してくださり、吹奏楽部にマーチングチューバを寄贈させていただきました。

また、同窓会は「永山高校後援会」にも参加しています。「永山高校後援会」は、PTA、PTAOB会及び同窓会からなる組織で、今年で五年目を迎えました。校長先生を初め諸先生方にご協力をいただき、PTAOB会、PTA、そして同窓会が力を合わせ、創立五十周年へ新たな気持ちで母校を、在校生を、応援していきたいと考えています。今後とも、ご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

新しい時代に入った母校とともに、末永く本同窓会が続いていけるよう、役員全員で心を合わせて運営にあたらせていただきます。行き届かない点もあると思いますが、今後とも同窓会なすびに母校の発展にご協力いただけますよう心よりお願いいたします。



「四十周年式辞」

校長 上野 勝敏

本日、ここに東京都立永山高学校創立四十周年記念式典を挙げるに当たり、東京都議会議員のしづか様をはじめ多くの来賓の皆様にご臨席を賜り、心より御礼申し上げます。

本校は昭和四十七年、生徒が急増した多摩ニュータウンに三十学級の大規模校として開校されました。それから四十年。卒業生は一万三千人を超える歴史を刻むことができました。

これもひとえに、本校を支えてくださった多くの方々のご尽力の賜物です。この場をお借りして、篤く篤く御礼申し上げます。さて、生徒の皆さん、今日は私たちの喜びの日です。この特別な日を迎えられた皆さんには、今日、ここで、新たな決意を抱いてほしいと思います。

今、この永山高校で育んでいる夢は、途中で諦めることなく大きく膨らませなくてはなりません。一方、熾烈な競争社会にあつて、その夢は簡単に実現できるものではありません。自分の夢に対して真剣に向き合わない、厳しい現実と直面しています。現実社会の厳しさは皆さんも理解できていると思いませんか。

厳しい社会の中に巣立った後も、自分の可能性を信じ、社会の中で自分の居場所を見出し、社会の中で自分の夢を実現し、社会に貢献できる人にならなくてはなりません。そのためには、この永山高校で「充電」をすることが、とても大事なことです。

永山高校は、三つのスローガンを掲げています。茶髪禁止・面接試験に強く当たる。部活動から学ぶ。この三つのスローガンを掲げて、皆さんが社会に貢献できる人材となることを目指して指導しています。

この学校生活の中で鍵となるのは、仲間です。永山高校の仲間が多く、本日の四十周年記念式典で活躍しています。この壇上の看板の文字は書道部が書きました。茶道部はお手前の披露をしています。美術部

の展示や、生徒会や総合学習の奉仕グループの力添えもありました。このあとの校歌斉唱では、野球部や演劇部の有志が活躍します。また、第二部には吹奏楽部・ダンス部・軽音楽部が出演します。

一人ではできないことも、仲間と一緒に可能になります。仲間と力を合わせて積み上げた成果が、まさにこの式典に現れています。この仲間を大切に、一緒に成長できる強い集団を作っていきます。

皆さんは、仲間を信じて恥じない行動を取っていますか？今、この瞬間も、充電に努めていますか？この式典という特別な「授業」を通して、ご来賓のお話を伺い、自分がこれから進むべき道について、ぜひ真剣に考えて下さい。

私は永山高校の生徒の団結力を信じています。「我ら永山、我ら永山・・・」校歌はその気持ちを奮い立たせてくれます。

充電に努めよう。自分を鍛えて磨こう。仲間を信じよう。そして仲間と一緒に成長しよう。今は小さな力だったとしても、震災で傷ついた日本の力に、東京の力に、そして地域の力になろう。永山高校の40周年に際し、本日も列席頂きましたご来賓の皆様方を前に、永山高校教職員を代表して宣言します。

「永山高校の生徒には、社会に貢献できる力があります。君たちは、もつと自信を持って、自分の夢を膨らませ、自分の可能性にかけ、自分の限界に挑んで下さい。その強い気持ちで自分の力になり、社会の力になり、そして永山高校をもつと魅力的な、百年先に誇れる伝統校にしてください。」

最後に、本日生徒のためにご列席頂きました全体的に感謝申し上げます。この式辞と致します。

最後に、本日生徒のためにご列席頂きました全体的に感謝申し上げます。この式辞と致します。

最後に、本日生徒のためにご列席頂きました全体的に感謝申し上げます。この式辞と致します。



「永山高校の近況」

副校長 高野 宏

平成二十四年三月九日、都立永山高校第三十八回卒業式が挙行され、二百十九名の生徒が三年間慣れ親しんだ学び舎を巣立っていきましました。今回の卒業生の中には、政法大学に一般入試で合格した生徒がいました。このことは、推薦入試を中心とした本校の大学進学が変わるきっかけになるかもしれませ

ん。また、学校評価アンケートの結果からも、家庭学習の時間が増える傾向がうかがえ、変わりつつある永山高校を感じています。入学時の高い志を失うことなく、さらなる高みを目指していただいたと思います。平成二十四年の四月からは、数学と理科において新教育課程の先行実施が行われます。現在、平成二十五年度からの完全実施を目指し、十年の計たる新教育課程の編成に取り組んでいます。

また、部活動加入率もこの二年間で十二、六%向上し、部の数も増え、活動も活発になってきています。しかし、OB・OGとのつながりは一部の部を除いて希薄なのが現状です。先輩たちが見に来てくれるだけで、後輩たちは励みになります。そして、卒業しても帰る場所があることに後輩たちは気づきます。技術指導他、様々な支援方法があると思いますが、三年間の部活動を通じて育んだきずなを大切に、いつでも、学校に遊びに来てください。例えば、現役部員との合同練習という形で、OB・OG会を開催されてはいかがでしょうか。現在、校庭の芝生化工

事及びハンドボールコート等の整備を行っています。四月からは体育施設がさらに充実し、ますます部活が盛んになることと思います。

最近髪を染める生徒も少なくなり、平成二十三年度は服装指導に力を入れてきました。しかし、この冬、スカートの下にスウェット等を履いて校内闊歩する女子生徒が出没するようになり、私的な場と公的な場の区別がつかない(常識の欠如)、他人の気持ちを察する力に欠ける(感受性の欠如)、他人の気持ち(傍観)を優先させる(自己中心的な性格)生徒が一部にいるのは大変残念なことです。

このような公共心等の欠如は、バス、電車内における大声でのおしゃべり、自転車での通学マナーの悪さにも現われており、ときどき、近隣の方からお叱りを受けています。このような生徒も高校を卒業し、社会の中で様々な人々と暮らし、やがて人の親になることを考えると厳しく指導していく必要があると考えています。教員も毅然とした態度で今後とも指導して参りますが、同窓会の先輩方も目に余る行為を見かけたら、御指導・御連絡をお願いいたします。

今後とも、生徒の成長を見守り、生徒の自己実現に向けた取組を行って参りますので、同窓会の皆様も御支援・御協力のほどお願いいたします。

創立四十周年記念式典の様子



2011年度 同窓会定期総会

2011年6月11日(土)、都立永山高校 同窓会定期総会を開催いたしました。
当日は、多数の会員の出席を頂き、各議題についてご賛同を頂き滞りなく終了いたしました。集合写真撮影の後、懇親会を開催、吹奏楽部の演奏を聴き、懐かしい母校の雰囲気を存分に味わっていただきました。

同窓生より

三期生 小柳
久しぶりに学校を訪れて懐かしい当時のことを思い出します。
久しぶりに校歌を歌いましたが永山の校歌は最高です！

三期生 長井
卒業して早や三十四年？と知って唖然とします。久しぶりに学校を訪れ体育館の場所がわかりませんでした。通りがかった生徒に聞いたところ丁寧に教えてくれてびっくりしました。

九期生 臼井 信行(生徒自治会 議長)
皆様の発展をお祈りします。三階の教室が懐かしいです。(バトミントン部OB)

九期生 比留間 康洋
やはり母校はいいですね、役員の皆様お疲れ様でした。

三期生 小山 喜美子
久しぶりに母校の階段を上がり懐かしい体育館で後輩の皆様の日ごろの練習の成果

に触れさせていただき感謝で心がいっぱいになりました。
在学中は、千三百五十人で歌った校歌を思い出します。昔は夢見る少女だった私も時の流れは恐ろしいものだと思えます。母校の皆様のお幸せをお祈りしています。

山上 薫先生
永高 限りなき発展を

二期生 馬医、矢島、市村
今日は女性三名で参加しました。卒業して三十五年、懐かしくて参加しました。
在校当時とは比べ物にならない程緑が多くなっているびっくりしました。

あの当時は新設校で周りは何もない所でしたが久々に来て、緑や家並にびっくりしています。

地学の授業で学校の周りの地層を見たり、美術の時間には農家の周りで写生をしているときに柿を頂いたりとは今では考えられないような時代でした。

今も緑に囲まれ先生、生徒が一生懸命な永山高校だと思えました。

(当日の一言ノートより抜粋)

役員紹介

本総会に於いて承認された現在の役員です。力を合わせて頑張りますので皆様のご協力をよろしくお願い致します。

	役職	氏名	期
1	名誉会長	上野 勝敏	校長
2	顧問	高野 宏	副校長
3	会長	奈良崎久和	3期
4	副会長	加藤 英明	1期
5	副会長	林田 真一	7期
6	会計	望月 希衣	9期
7	会計	小高 一真	25期
8	書記	小峯 信子	3期
9	書記	小澤 美穂	32期
10	常任委員	尾崎 正	1期
11	常任委員	峯尾 仁	2期
12	常任委員	松井 泰衛	2期
13	常任委員	林 ゆきの	3期
14	常任委員	高木 美恵	4期
15	常任委員	高久 誠	7期
16	常任委員	井下登美子	7期
17	常任委員	桑原 秀夫	8期
18	常任委員	関戸 正義	10期
19	常任委員	近松 正隆	12期
20	常任委員	宮村 祐二	31期
21	常任委員	神子沢 舞	31期
22	常任委員	吉岡奈々子	31期
23	常任委員	高村 恭平	32期
24	会計監査	平田 江里	7期

役員からの一言

近松 正隆 (12期生)

昨年開催された同窓会総会にて、常任委員に加わせて頂くことになりました。

以前からmixiやGREEのコミュニティやFacebookのページを立ち上げており、それらと連携することで同窓会を盛り上げたいと思っています。

同窓会ホームページ共々、よろしくお願い致します。



会員のページ

三期生 同期会

二〇一一年六月十一日(土)同窓会総会終了後の五時三十分から卒業後初となる三期生会が、京王プラザホテル多摩で開催されました。

二組担任の石野先生、三組の田代先生、六組の中尾先生にもご出席いただき、当日の飛び込み参加も含めて、総勢九十名もの同期生が集まりました。

代表幹事の久保(久保)さん(二組)の挨拶、乾杯、そして歓談へ・・・

数十年ぶりに会った人、在学中は存在すら知らなかった人も、皆本当に懐かしく、一瞬で青春の真つ只中にワープしてしまつたような錯覚を覚えました。

大変な盛り上がりの中、あつという間にお開きの時間に。まだまだ語り足りない五十人以上の仲間達と石野先生は、そのまま二次会へ。日付が変わる頃まで話に花を咲かせていました。(幹事一同)
*次回の同期会は、二〇一三年九月五日(日)を予定しています。



七期生 同期会

都立永山高等学校七期生

同期会開催について

昨年、六月十一日(土)同窓会定期総会後の午後五時三十分より京王線 京王永山駅最寄のレストラン美膳において初めての七期生の同期会を開催しました。

昨年は永山高等学校が創立七十年の節目の年であり、また、我々七期生が卒業して三十年の年でもありました。

この機会に今まで一度も開催されていない同期会を開催しようと、一部の卒業生を中心に話が盛り上がり今回開催の運びとなりました。ただ、準備不足や周知不足があり、当日は残念ながら担任の先生方や参加していただいた人数も十七名と非常に小規模な集まりとなつてしまいました。しかしながら、かえって少人数の為、クラスが違う卒業生でもすぐに打ち解け高校時代の話や今回参加できなかった共通のクラスメイトの話など一次会の時間もあつと言う間に過ぎました。個人的には、ワンダーフォーゲル部で一緒だった同期生と卒業以来三十年ぶりに再会するなど非常に楽しい集まりでした。

二次会は、場所を聖蹟桜ヶ丘の居酒屋に移し、一次会に参加でき



なかつたメンバーも加わり大いに盛り上がりを見せました。今回の同期会がきっかけとなり、四組や七組はその年の秋にクラス会も開催されました。
二回目の同期会を開催したいと思います。その時はこの会報をお読み頂いている七期生の皆様、ぜひ、ご参加頂きます様お願い申し上げます。

(二組 林田真二)

七期生四組 クラス会

去る二〇一一年十月二十二日、立川グランドホテル内レストランオークにて、七期生三年四組の同窓会を開催致しました。昨年は卒業三十周年の節目の年にあたり、卒業以来二十数年ぶり二回目の同窓会となりました。総勢二十名が参加。乾杯の音頭の後、一人ずつの自己紹介と近況報告、歓談へと最初は、名札を作っておけば良かった・・・と思いきや、数分後には高校時代の面影がすぐに蘇り、すっかり気持ちだけは高校生。思いつきや近況報告等で旧交をあため、楽しい時間を過ごしました。二次会は立川駅近くの居酒屋に十八名が参加。互いの三十年の人生を語り合うには、あまりにも短い時間でしたが、これを機に、交流の機会が増え更に親交の輪が広がればと願っています。今回残念ながら参加出来なかった関塚先生には全員の直筆のメッセージとお写真を贈らせて頂き、大変喜んで頂きました。

次回の同窓会は三年後を予定しています。今回参加の友は勿論、一人でも多くの友が集える事を願っています。

(四組クラス会幹事一同)



七期生七組 クラス会

七期七組齊藤先生クラス会に
二十七日人集結！
宴会場変更の盛況！に幹事はうれしい悲鳴

十一月十九日、東京・新宿で永山高校七期三年七組(齊藤秀明先生)クラス会を開きました。卒業後三十年、最後にクラス会を開いたのが二十年前ということもあり、みんなこの機会をいつかいつかと待っていてくれたようでした。当初、幹事の予想参加者十数人を大きく上回る二十七人参加の盛況でした。個室の部屋をキープしていましたが、入りきれず大広間での大宴会になりました。齊藤先生にもご出席いただきました。

三十年ぶりないし、二十年ぶりに会えた喜びはひとしお。出会った瞬間の歓喜のハグが相次ぎ、名札カードも付けて、近況や懐かしい思い出話に花を咲かせました。

一か月もずっと休みが取れていないがなんとか駆け付けた、会社が倒産の危機の中でとりもなおさず来てみたが本当に涙が出る思いだ、など日々格闘しているとの発言が多々ありました。

母校野球部コーチからは、「甲子園出場のあかつきにはカンパをお願いします。」という力強い訴えもありました。

当初、連絡先が不明な人が大多数。四人の幹事が手分けして連絡をとる作業をすすめるなか、次から次へとみんなの所在が分かってきました。出席したいのは山々だが、仕事でやむを得ず欠席、残念で仕方ないという仲間もいました。僕達は、今年五十の舞台に到達します。これまでの人生は、苦しかった、つらいこともあった、でもこうして集まれたことは何よりうれしい、これからの人生を大いに楽しみ満喫したいとの声や、「泊りがけの温泉旅行に行こう」との提案もなされ、次回開催をみんなですべて約束しました。

我が永高。『誉れある栄光の誇りを胸に、永高魂を發揮して、このせちがらい世の中と向き合い、元気で生き抜いていこう。』との思いを共有しました。

不夜城・新宿でのクラス会は、二次会を経て、深夜一応のお開きとなりました。

(米沢 誠)

事務局からのお知らせ

このページは、永山高校を卒業された会員の皆様のページです。同期会やクラス会、また、クラブのOB会などの告知や報告の場として活用してください。卒業生の名簿の開示については、同窓会ホームページをご覧頂くようお願い致します。

会報は毎年発行する予定です。現在の永山高校の情報や同窓生相互の連絡の場として、この会報が皆様のお役に立てれば幸いです。

これからは誌面のなかで、さまざまな分野でご活躍の同窓生も紹介したいと思っております。四十周年を過ぎ五十周年を迎えるために、さらに充実した同窓会運営のためにも、皆様からの情報をお寄せください。なおホームページに事務局の案内がありますのでよろしくお願い致します。



創立四十周年 マーチングチューバ 寄贈の御礼 吹奏楽部より

永山高校同窓会の皆様、日頃から後輩たちを応援していただきありがとうございます。

創立四十周年記念式典に際しまして、同窓会の皆様より吹奏楽部に楽器を寄贈していただきましたことを心から御礼申し上げます。この楽器を使って、皆様に喜んでいただけるようなパフォーマンスをして、地域の皆様に元氣と笑顔をお届けしたいと思っております。二〇一二年五月十二日(土)バルテノン多摩大ホールで開催する「都立永山高等学校吹奏楽部第三十回定期演奏会」(開演午後五時)第二部ステージ「マーチング・ショー」にて、いただいた楽器を早速披露させていただきます。楽しく元氣いっぱいステージにしたいと思っておりますので、同窓会の皆様、もしもお時間がございましたら、ぜひご来場ください。皆様への感謝の気持ちをこめて演奏させていただきます。ありがとうございます。

三八期生 吹奏楽部部長 中川 茜 (二〇一二年三月九日卒業)

永山高校同窓会会員の皆様、いつも現役の生徒たちの活動をご支援いただきありがとうございます。また、昨年十一月の創立四十周年記念式典に際しまして、体育館の暗幕一式や図書館書架、校庭用テントなどと合わせまして、吹奏楽部のマーチング用チューバの寄贈をいただきましたことを心から御礼申し上げます。記念品として寄贈していただいたマーチング用チューバは、四月一日(日)バルテノン多摩にて開催されました「ブラストフェスタ多摩二〇一二」東日本大震災復興祈念チャリティコンサート」の演奏でさっそく使わせていただきました。

大きく厚みのあるマーチングチューバの響きが加わったことで、演奏に大きな効果をあげることができました。今までのスーザフォンより、はるかに重いのですが、演奏担当の生徒からも「この楽器の重さは、永山高校の先輩方からの僕ら現役への期待や伝統の重みだ」と思っていました。頑張ります！」という言葉も飛び出しました。定期演奏会では、吹奏楽部OB「多摩ウインズ」も、十一期生からこの三月に卒業した三十八期生も加わったメンバーで、旧顧問の小林裕行先生、馬場正英先生、宇賀神智先生にもご協力いただきました。二十五分間演奏していただく予定となっておりますので、ぜひご来場いただきますようお願い申し上げます。応援をよろしくお願ひ申し上げます。吹奏楽部顧問 馬場 桂



吹奏楽部演奏会情報

第三十回 吹奏楽部定期演奏会

日時：二〇一二年五月一二日(土)
会場：バルテノン多摩 大ホール
開演：午後四時三〇分
チケット：前売り 七〇〇円
(当日 八〇〇円)

問い合わせ
都立永山高等学校吹奏楽部
TEL 〇四二一三七四一九八九一

吹奏楽部OB会

吹奏楽部OBバンド「多摩ウインズ」です。一九九〇年(平成二年)に、OBのメンバーで結成しました。これまでに、A.リード氏、J.バーンズ氏、F.フエネル氏など、著名な方々を迎えて演奏会を開催してきました。多摩ウインズは演奏会出演の決定と

私も同窓生です!VOL3

今回ご紹介するのは、三十一期生の黒田雅之さんです。黒田さんは、何とボクシング日本ライトフライ級のチャンピオンです。三・一二「チャンピオンカーニバル」での三回目の防衛戦を前に、大変お疲れで忙し中、快くお話を伺わせていただきました。

黒田さんは、小学校一年生から続けた剣道から、永山在学中の一年生の時に自らボクシングの門を叩いたそうです。その後現在のジムの開業に合わせ、新田会長を師事し本格的にボクシングに取り組み始めます。

高校卒業のころにプロテストに合格卒業直後の五月にKO勝ちでプロデビューしました。その後敗戦を乗り越え、東日本・そして全日本の新人王を獲得。浮き沈みはありましたが、地道な努力の結果、昨年のチャンピオンカーニバルにおいて、第三十四代日本ライトフライ級チャンピオンに輝きました。同窓会でもその後の二回の防衛戦を応援させていただきます。今回三回目の防衛戦となります。

「高校時代の思い出はあまり...」という黒田さんですが、自らボクシングを始めた時から、世界チャンピオンになることをめざしていたそうです。

同時に、三〇〇名を超える卒業生からメンバーを集めるため、毎回違った顔ぶれで臨みます。今回は昨年に引き続きの参加になります。集まったメンバーで最高の音楽ができるよう、精一杯演奏させていただきます。現役の吹奏楽部の皆さんも頑張ってください。今年も一緒に演奏できることを楽しみにしています。定期演奏会に同窓生の皆様にも足を運んで頂き楽しいひと時をお過ごし下さい。

志の高い黒田さんだからこそ、厳しい練習にも耐え、結果を出すことができました。後輩にひとこととお願ひしたところ「両親が今勉強しなさいと言う意味をもう一步深く感じてほしい」「今やりたいことの見つからない人も、自分の可能性・将来の幅を広げるため、学校の勉強だけでなく広く学ぶことが大切」と真剣にお話しいただきました。

あと一週間あまりで防衛戦という中で勝利したい」と力強く決意、しばらく練習を見学させていただきました。多くの同窓生や在校生にとって最大の励みになる、チャンピオンの活躍に心からエールを送ります。取材にご協力いただいた、黒田選手、川崎新田ジムの新田会長はじめみなさまに感謝いたします。

※三月十二日に行われた三回目の防衛戦は、判定での引き分けによる防衛となりました。今後の飛躍に期待しています。



